



今まで存在したことがないような命知らずの、騎兵ではなく歩兵で、スルタンの命令一下、どこにでも行って大暴れして来るニュータイプの、何と言うか、徳川幕府の旗本三百家みたいな。スルタンの鶴の一声で何でもやる軍隊がイエリチェリ。

イエリチェリは生涯結婚が許されない。国家と結婚した。「あなたの命はそのためだけに使いなさい。」その代わり莫大な報酬、素晴らしい年金、様々な免税特権があったので、生活するには何も困らなかったんですね。

そして、彼らが行進する時は軍楽隊。今自衛隊にも軍楽隊があるでしょ。軍隊に音楽を使ったのはオスマン帝国イエリチェリが初めてなんですね。この軍隊が行進して来る音楽にアイデアを得て作ったのがトルコ行進曲で、モーツァルトやベートーベンなど非常に有名ですよ。

この軍楽隊に合わせてザッザッザ進むのですが、先頭の旗に必ずある物が付いていました。何でしょう？ スプーンです。食事をする物。なぜそんなものが先頭にくっついているのか？ この軍隊は幼い時から、1つの家族のように同じ釜の飯を食って大きくなった。もうね、結束力・団結力が半端ない。

当時は傭兵部隊がほとんどです。金のために戦争に出るようなもんなので、そんな忠誠心とかあんまりないんですよ。ところが、イエリチェリだけはそうじゃない。もう泣く子も黙るイエリチェリ。この軍楽隊の音楽が遠くから聞こえてくると、ヨーロッパのあらゆる国で、たとえば農民が作業している時でも、遠くの方からトルコ行進曲が聞こえてくると「逃げろ！」すぐに作業中断して、家の中で息を潜めて隠れていたと言われていました。

イエニチェリ。元々白人・ヨーロッパ人の奴隷部隊によって、ヨーロッパがボッコボコにされています。イエニチェリは非常に強かった。特にヨーロッパ人に対して。

この軍隊でオスマン帝国はハンガリーを属国化し、神聖ローマ帝国（今のドイツ）に攻め込んで、皇帝カール5世の領地であるオーストリアのウィーンはトルコの軍隊によって2度にわたって（落ちなかったけど）周囲を包囲され、スペイン・ベネチアの海軍がトルコ海軍にやっつけられて、東地中海の制海権はオスマン帝国に落ちてしまい、更にチュニジア・アルジェリア・アフリカの北海岸・イラクも併合し、地中海を取り囲むような大帝国に発展するんです。すごいですねえ。

しかし、このオスマン帝国の栄光もずーっとは続きませんでした。驕れる者久しからず。ある時から、オスマン帝国はどんどん負けが込むようになり、最終的には“ヨーロッパの病人”とまで言われるようになってしまっただけです。一世を風靡したオスマン帝国が、なぜ駄目になっていったのでしょうか？

1つの見方があります。ユダヤ人への対応が、時代と共に劣悪なものに変わって行ったんです。初めは大歓迎でした。前回ヨセフ・ナシの話をしました。しかし、スルタンが代替わりして100年経ち200年経ち、時代を重ねるにつれて、ユダヤ人への対応が変わって行ったんです。つまり冷遇するようになるのです。

聖書にヨセフという人物が出て来ます。アブラハムの曾孫で、もちろんユダヤ人ですよ。彼はお兄さんたちの妬みを買って、兄たちから奴隷商人に売り飛ばされてしまいます。そして数奇な運命というか、流れ流れてエジプトに行き、そこで摂理的な様々なことがあって、最終的にエジプトのトップ/ファラオ（エジプトの王様）の目に留まって大出世するんです。

とにかく、ヨセフが言うてることをその通り実施したら 全部うまく行く。ヨセフのアドバイスに従ったら、何から何までうまく行く。それで、ヨセフのアドバイスに従って、全世界が飢饉の時でもエジプトには食糧があり余るという状況を作り出せたんです。

やがて、飢饉に喘いでいる自分のお父さん、兄弟たち家族を皆エジプトに呼び寄せて、ヨセフのゆえに、イスラエルはエジプトの中で飢えることなく繁栄した、という話があるんですね。

ところが、良いことはずっと続かない。ヨセフを非常に重用したファラオから代替わりした時、ヨセフがしたことを知らないファラオが出て来るんです。

ヨセフを重用したファラオは第 15・16 代王朝でセム族。ユダヤ人もセム族。だから、先祖を辿っていくと親類みたいなもんです。しかし、代替わりでハム族のファラオになったんです。元々エジプトはハム族が住んでいる国だったのが、後からセム族が乗っ取った。それがまたハム族に戻ったんですね。

そうなってしまった時、「ユダヤ人たちが昔良いことをした…って、知らんで、そんなの。今の我々に何の関係がある？ この国のユダヤ人 むちゃくちゃ多いやないか。こんなに多いユダヤ人が、いざ戦争になった時に敵に寝返ってしまったらどうなる？ 味方の中に敵が住んでいることほど恐ろしいことはない。ユダヤ人を弱らせたほうがいい。」

新しいファラオはユダヤ人をいじめるんですねえ。弾圧しますね。

最初に出した命令は、「ユダヤ人の赤ちゃんが男の子なら、生まれてすぐにナイル川に捨てて溺死させよ。」ユダヤ人の助産師たちはそれに従いませんでした。それで、ユダヤ人たちはどんどん増えていきました。

結論を言うと、最終的に、ユダヤ人はファラオが支配するエジプトから出て行きます。

彼らを連れ戻すために、エジプトの軍隊が後ろからグワーツと追いかけて行くんですね。

ユダヤ人はモーセという指導者に率いられ、海が真っ二つに分けられ、分かれた海の乾いた地面を歩いて向こう岸に渡るのですが、ユダヤ人たちが渡り切ってしまうと海がまたバサツと元に戻った。ユダヤ人のすぐ後ろまで迫っていたエジプトの軍隊はみんな、海に呑み込まれて溺死しました。

その瞬間、聖書の言葉が実現したのです。アブラハム契約「あなた（ユダヤ民族）を祝福する者は祝福され、あなた（ユダヤ民族）を呪う者は呪われる。」

歴史を見ると、ユダヤ民族にしたように返って来ます。ファラオは「ユダヤ人の男の子をナイル川に投げ込んで全員溺死させよ。男の子は皆、水に溺れさせて殺してしまえ。」言ったのと同じことが、自分に掛かって来たんですね。ファラオもエジプト軍も全員男です。彼らは紅海で溺死しました。

ユダヤ人にした通りに戻って来る。ユダヤ人を祝福した国は祝福され、呪う国は呪われる。

世界の歴史をユダヤ人の関わりを通して見ると、このアブラハム契約が有効で、脈々と生きていることがよく分かります。神の言葉は今も生きていて有効なんです。

ユダヤ民族の歴史を辿ることによって、聖書の御言葉が、今も生きて働く創造主の言葉であることが認識できるんですね。

ということで、ユダヤ民族とディアスポラについて、今回はユダヤ民族とオランダについて、ご一緒に考えたいと思います。

それではまた、このチャンネルでお目にかかりましょう。それまでお元気でいらしてください。

それでは皆さん、さよなら！